

育していた。術中迅速凍結切片にて germinoma と診断された。HCG を始めとする腫瘍マーカーは亢進していなかった。術後、視力の回復は速やかで、尿崩症も軽く収まり、現在放射線照射中である。

A-48) 思春期早発症を合併したくも膜のう胞の1例

菅原 厚・平野 友久 (明和会中通病院)
 蝦名 一夫 (脳神経外科)
 伊藤 忠彦・赤羽 道子 (同 小児科)
 坂本 哲也 (秋田大学 脳神経外科)

思春期早発症を合併した頭蓋内くも膜のう胞の稀な症例を経験した。

患児は1歳、女兒。性器出血をきたしたため、昭和63年8月30日入院した。意識は清明で、神経学的に明らかな異常はなかった。乳房発達 (Tanner-II度)、恥毛がみられ、骨年齢は3歳に相当した。LH (7.6mIU/ml), FSH (7.0mIU/ml), Estradiol (29.9pg/ml) はいずれも高値で思春期レベルに相当し、LH-RH 負荷試験では LH 値は過大反応を示した。頭部 CT, MRI では右中頭蓋窩、鞍上部に拡がるくも膜のう胞の所見であった。水頭症の合併はなかった。う胞腹腔短絡術をおこない、う胞の縮小化とホルモン値の正常化が得られたが、術後40日目に再び性器出血があり、短絡術の効果は不十分であった。その後、cyproterone acetate の投与を開始した。

本疾患の外科的治療ならびにその効果について若干の文献的考察を加えて報告する。

A-49) CT 上 Bromocriptine で、腫瘍消失をみた末端肥大症の1例

大倉 良夫・早野 信也 (水戸済生会総合病院)
 北沢 智二 (脳神経外科)

Bromocriptine にて急速に腫瘍が縮小した末端肥大症の1例を経験したので発表し、文献的考察を加える。

症例は、46才の女性。6年前より始まった。顔貌の変化を主訴に、昭和63年1月11日当科を初診した。血中 GH 値 140ng/ml と上昇。その他のホルモンは正常域だった。CT 上トルコ鞍から鞍上部伸展を示す腫瘍あり。末端肥大症と診断した。1月26日経蝶形骨洞腫瘍摘出術を行ったが、術後 CT にて約40%の残存腫瘍を認めた。術後1カ月目より Bromocriptine の経口投与を行った所、急激に残存腫瘍は縮小し、投与後2カ月目の CT

上腫瘍は消失した。現在まで再発は認められない。

Bromocriptine が末端肥大症において GH 値を低下させる事は、良く知られているが、腫瘍が消失したという例は、非常にまれである。しかし、本例のように著効を示す例もあり再手術、放射線療法を考える前に試みられてもよい一法と思われた。

A-50) Fibrous dysplasia を合併した acromegaly の1治験例

田村 哲郎・黒木 瑞雄 (新潟大学 脳神経外科)
 田中 隆一 (脳神経外科)
 谷 長行・千葉 泰子 (同第一内科)

Polyostotic fibrous dysplasia は種々の内分泌症状を伴うことが知られ、Albright 症候群と呼ばれるが、acromegaly との合併は極めて稀で今までに十数例の報告を見るにすぎない。その外科的治療は著しい骨病変のために困難とされ、acromegaly に対しては放射線または薬物治療がなされてきた。我々は今回経蝶形骨洞法にて手術しえた1例を経験したので報告する。症例は46才の女性で、糖尿病の精査により GH の高値が指摘され当科に入院した。GH 基礎値は 32~41ng/ml, PRL は 21~36ng/ml であった。頭蓋単純写ではトルコ鞍の拡大はなく、蝶形骨洞は presellar type であったほか、右側頭骨から蝶形骨を中心とする ground glass appearance を認めた。CT, MRI では鞍内右側に mass 所見を認めた。手術は蝶形骨洞の大部分を占める fibrous な mass を piece meal に切除後、鞍底を開けて下垂体腺腫を摘出した。腫瘍は mixed GH/PRL cell adenoma で、術後 GH は 5ng/ml 以下、PRL は 9~15ng/ml となった。

A-51) 蝶形骨洞より発生し、Empty Sella を伴った Ectopic Pituitary Adenoma の1例

井出 涉・堀田 隆史
 鎌田 一・荒 清次
 佐藤 純一・福岡 誠二 (中村記念病院 脳神経外科)
 川合 裕・伊東 民雄
 中村 順一
 末松 克美 (財団法人 北海道脳神経疾患研究所)

Ectopic pituitary adenoma の報告は少なく、また免疫組織学的に同定された症例は文献上散見されるにすぎない。今回我々は蝶形骨洞に発生し、empty sella を合併した ectopic pituitary adenoma with prolactin production の一例を経験したので、文献的考察を加え